

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

製造業依存から農食産業への転換

1. 「攻めの農林水産業」と称して政府の掲げた政策が動き出している。農林水産業に注力すべき理由はある。第一は、日本の経済競争力を工業・モノづくり産業だけへの依存から脱し、多様な他分野で展開しなければならないということだ。もちろん、製造業の再生は進めなければならない。
2. 第二は、農水省の資料によれば、2009 年に 340 兆円だった世界の食の市場規模が 2020 年には 680 兆円に倍増する。特にアジアは 82 兆円から 229 兆円へと 3 倍増になる見込みだ。これは新興国の中間層の食需要が急増するためである。日本の食産業を世界へ広げられるか、その国際競争力が問われているのである。その食の素材は農林水産品である。そこで日本の安全でおいしい食素材・食材や食品を供給できないか、となる。
3. 第三は、食料自給率の問題だ。農水省によれば自給率は、2012 年度現在でカロリーベース 39%、生産額ベース 68%であるという。食料の安全性確保と並んでいざという時のための備蓄も含めた安定的供給確保は国の重要政策課題なのである。ここで、「農と食のジャパンブランド」の政策戦略が必要となる。

(参考:「週刊東洋経済」2014 年 2 月 8 日号)

人事・労務について

60 歳からの転身

1. 小野電子工業（東京都北区）社長の鈴木隆史さん（64）は、60 歳を超えようとしたとき、長年の夢だった社長の座を買った。小野電子は、いわゆる下請け仕事ではなく、最終商品を持っている。何かといえば防犯装置。IBM に 20 年間勤務していた鈴木さんは、海外駐在や出張の経験から世界は性悪説で動いていると知っていた。
2. 小野電子の社長になって最初に着手したのは、規定作りだった。社長をはじめ役職別に報酬額を公開すると共に、職務規定を自ら書き上げた。規定がしっかりすることで、「社員が明るくなった」という。防犯事業が安定しているだけに、それ以外の事業がなく、「社内に停滞した雰囲気がある」と感じ、新規事業をスタートさせた。特殊計測事業と厨房設備事業だ。買収後 1.4 億円の売上高も今期（7 月決算）は、2.1 億円まで伸びる見通しだ。

(参考:「WEDGE」:2014 年 3 月号)

街の活性化策

富山市・柏市にみるコンパクトシティ

1. 今、高齢化・人口減少社会への対応と、環境への配慮を行った新たな都市の形に注目が集まっている。高齢化・人口減少社会の中で現状の分散した都市は多く問題点を抱える。主な問題点を挙げると、①車を運転しない・できない高齢者にとって生活が不便となる。②郊外を含めた広範囲のインフラを維持することが困難となる。③人口密度低下によって介護サービスなどサービス業の生産性が低下する、などである。
2. コンパクトシティ実現のため中心部へ人口を誘導するための施策の一つが、中心地の公共交通網を拡充することである。富山市においてはローカル鉄道を LRT と呼ばれる次世代路面電車システムとして再生し、運行本数を大幅に増やすことで、中心部への人口の流入を促している。柏市は、柏の葉キャンパス駅周辺では、地域でエネルギーを一元管理するシステムを導入し、自転車や電気自動車を通じて、温暖化効果ガスの削減に取り組んでいる。

(参考:「野村週報」2014 年 3 月 24 日号)

古典に学ぶ

小知を捨てる

(解説) あらゆる存在には、よって来たる根元がある。その根元が「道」だ。「道」こそ、すべての存在の根元である。感性では捉えられぬ物事を認識することが「明知」である。感性に依存する小知を捨てて、存在をあるがままに受容することが、「堅固」な認識の立場である。小知を捨てて「道」にのっとり、「明知」に立ち返るなら無限に自由な境地がひらける。

(参考: 奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」: 徳間書店)